

千 葉県市原市に本社を構える赤星工業は、非鉄金属の溶接・加工のスペシャリスト集団として知られる中小企業である。2代目社長の赤星健二社長は、非鉄金属に特化した自社の事業内容について紹介する。

「当初は鉄の加工を手がけていたが、需要構造の変化などから必要に迫られて非鉄金属を扱うようになりました。現在当社が得意としているのはアルミニウムからチタン、ニッケル、ニッケル合金、タンタル、ジルコニウム、ニオブなどほとんどが白色や黄色の非鉄金属です。溶接を主体とするフアブリケーター・アッセンブラーとして、非鉄金属を材料にしたあらゆる業種・産業の部品機器類をつくるというのがわれわれの存在理由です」

自らを「町工場のオヤジ」と謙遜する赤星社長だが、この会社、ただの町工場ではない。軽金属からレアメタルまであらゆる非鉄金属の溶接・加工に対応できるうえ、一般部品から医療、宇宙関連装置まで幅広い販路を持っているのである。手のひらに乗る容器から大型の貯蔵タンク、サイロ、真空容器まで多種多様なものづくりのノ

けに、その信頼性の高さが重要になってくるのです」

1人当たり8件超の資格

同社のようなものづくり企業にあつて、品質水準を担保するのは「人材の質の高さ」にほかならない。国内の重厚長大産業がバブル崩壊以降大幅な人員削減を実施したことで、現在は技能労働者が不足していると言われているが、「人の力」を最大限に伸ばすことを社是としてきた当社では、優れた技術をいかに発揮している技能者が数多く存在する。赤星社長はいう。

「黄綬褒章を授与されたり、千葉県県の『現代の名工』に初の30代で選ばれたり当社技能者の技術レベルは高い。彼らは本当に誇るべきテクニシャンで、いくら最新鋭の機械をとりそろえたとしてもかなわないでしょう」

顧客の信頼を支える技術力を担保するためには、社員教育を徹底して行うことが一番の近道。ひとくくりに非鉄金属といっても溶融温度や高張力、耐力などそれぞれの特性は多種多様で、それらすべての知識と溶接の仕方について精通しなければ一人前とはいえない

徹底した人材教育で品質高める非鉄金属溶接の技能者集団

●赤星工業

「第47回グッドカンパニー大賞」の優秀企業賞を受賞した赤星工業。非鉄金属の溶接加工技術が高く評価されたものだが、そのベースには「人材教育に資源を惜しまない」経営があつた――。



赤星健二社長

ウハウを蓄積しており、陸上で輸送することが不可能な大型製品は、そのまま船に乗せて海外に納品することもできる。これまでタンク、ブレンダー等数多くの大型製品の溶接加工を手がけ、国内外問わず多くの石油プラントや化学メーカーの工場に納入してきた。

主力製品は世界シェア2割

そうした製品群の中で、世界的にも高シェアを獲得しているのが、食塩を電気分解して塩素ガスとカセイソーダを取り出す「電解槽」と呼ばれる装置。アルカリや化学繊維、塩化ビニル樹脂製品には欠かせない化学工業の基礎原料を生産する重要な装置で、①耐食性が要求されるためチタンやニッケルなどの非鉄金属を使わなければならない②数量が工業製品用としては比較的多く、とくにコスト削減が要求される③電気分解に使う電力の抑制と材料費削減のため、軽量化と高い製作精度が要求される――など非鉄金属のなかでも高度な溶接加工技術が求められる製品だ。

同社は40年以上にわたり電解槽を手がけてきた古参企業として現在主流となっている「イオン交換膜法」に最適な製造技術の開発にもいち早く取り組んだ結果、およそ世界シェア2割を獲得するまでに至った。最終製品の需要がアジアで伸びていた2008年には千葉県茂原市に工場を新設して生産能力増強を果たしている。このほか変電設備で使用するアルミ容器類、リチウムイオン電池用銅箔生産設備、樹脂ペレットのブレンダーシステムなどでも大きな存在感を示しているという。

さらにメンテナンスや修理に対する素早い対応も同社の特徴のひとつだ。電話一本ですぐに工場に社員を派遣する「プラント・設備機器の緊急救命隊」として、製品の補修・修繕や緊急時の対応で数多くの実績を重ねてきた。このようなメンテナンス業務の依頼が最近増えているというが、赤星社長は「溶接の信頼性が高いからではないか」と推察する。

「たとえば変電設備のアルミ容器は、溶接部分に針の穴ほどの隙間が空いてしまうだけで山手線が止まってしまふ可能性があります。溶接は古い技術ですが、日本の産業界プラントでその技術を用いていないところはありません。人々の生活を支える不可欠な技術なのだ

い。その教育は一朝一夕に成し遂げられるはずもなく、「一人ひとり新卒からじっくりと育てる」(赤星社長) ことが何より重要になるのである。

そのため同社の溶接技能者は全員が正社員で、平均年齢35歳、平均勤続年数13・5年と年齢構成のバランスや定着率も良好。定年退職後の従業員も「シニアアドバイザー」として活躍できる場が用意されており、「親子3代体制」(赤星社長) で人間性・技能の研さんに努めることができる労働環境を積極的に整備してきた。

「投資促進税制で最新設備の一括償却が認められましたが、それはあまり関係ありません。当社は最新鋭の機械の数ではなく、技能者の技能の積み重ねで成り立っているからです。したがって機械設備率という指標も意味を成しません」

この方針に従い同社は、技能者の資格取得・研修のための費用は惜しみなく投入している。その結果、従業員の資格取得総数は800件を突破し、1人当たりで換算すると8件超と驚異的な数に達した。また高度な技術を身に付けてきた技能者の存在は産学連携の研

究開発の機会も生み、2009年には大阪大学などと共同で画期的な新型プラズマ溶接技術の開発に成功。溶接加工可能な板厚を既存の5ミリ程度から15ミリまで大幅に引き上げたことにより、変電所や化学プラント向けのアルミ製タンクなどでの需要開拓が期待されている。

約30年にわたり黒字決算を続け、堅実経営を継続してきた赤星工業。その優れた技術力や社員教育に対する真しな姿勢が高く評価され、昨年「第47回グッドカンパニー大賞」の優秀企業賞を受賞した。今後の抱負について赤星社長はこう話す。

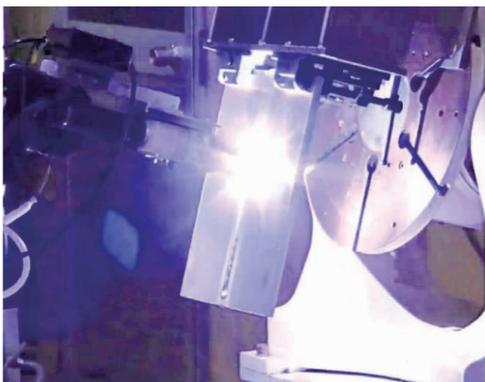
「当社は働く人が主体のプリミティブな伝統産業ですが、『町工場は企業の原点である』というプライドを持ってやっています。冬季オリンピックで世界中の競技者が技術を競いましたが、よりよい成績をめざして進歩しなければならぬという点は、企業もアスリートと同じではないでしょうか。今後も他社とは『一味、半歩』先を追求することで、お客さまから信頼される『時代の子』となり、社会の役に立ち続けたいと思っています」



2008年から稼働している茂原工場

COMPANY DATA

- 設立 1946年3月
- 所在地 千葉県市原市八幡海岸通5番地4
- TEL 0436-41-3366
- 売上高 約20億円
- 社員数 110名
- URL http://www.akahoshi.co.jp/



プラズマ溶接の新技术を開発



アルミ製サイロブレンダー